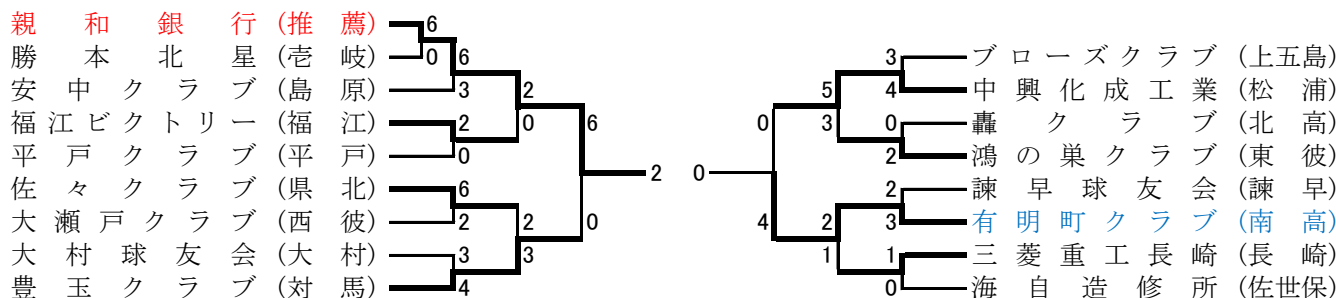


有明町ク、6年ぶり二度目の決勝戦も親銀に雪辱される

第33回長崎県軟式野球選手権大会

会期： 昭和58年10月28日(金)～30日(日)
会場： A・大橋球場 B・三菱球場



第33回県軟式野球選手権大会はこの年の九州ミニ国体にも出場した親和銀行(前年度優勝・推薦)をはじめ17チームが参加して、雲一つない快晴に恵まれた28日午前8時30分から大橋球場で行なわれた開会式で三日間にわたる大会の幕を開けた。県警音楽隊の吹奏により各チームが入場して徳永政俊長崎新聞社事業本部長の開会宣言に続き、優勝旗や県軟式野球連盟会長杯などの返還があり、親和銀行の古川一彦主将が選手宣誓を行なって開会式は終わった。第1日は大橋球場と三菱球場で一二回戦の9試合があった。

(昭和58年10月29日付けの長崎新聞より抜粋)

親銀 宮本が勝本北星を完封

【親和】打安点

③久住呂	4	1	1
⑧古川	3	1	1
⑨宮添	4	1	1
②黒石	2	0	0
⑦川崎	3	1	0
④高柳	2	0	0
⑤辻	3	0	1
①宮本	3	1	1
⑥岩崎	3	2	0

27 7 5

【一回戦】◇大橋◇ 振球犠盗失残併 1時間29分

親和銀行	041 000 1	6	2	3	0	9	0	3	0
勝本北星	000 000 0	0	3	0	0	0	2	6	0

【二】宮添 中村

【評】親和は二回に高柳の四球を足場に一死後宮本以下が5連続安打、これに足を絡めた攻撃で一挙4点。三回にも1点を加え勝負を決めた。勝本北星は軟投の宮本から6安打を放ち、六回は無死二三塁としたが後続なく、県選手権大会初出場した前年の準決勝で親和と対戦して1-3敗戦したリベンジを果たすことができずに完封負けを喫した。

【勝本】打安点

⑥久田	3	0	0
④白川	2	0	0
4山本	1	1	0
⑬中村	3	1	0
③山口	3	1	0
⑨原田	3	1	0
②大久保	3	0	0
⑤尾形	3	1	0
⑧篠崎	1	0	0
H8豊坂	2	1	0
⑦松川	1	0	0
H8牧山	2	0	0

27 6 0

【親和】打安点

③久住呂	3	0	0
⑧古川	3	0	0
⑨宮添	2	0	0
②黒石	2	1	0
⑦川崎	3	0	0
④高柳	3	0	0
4岩佐	0	0	0
⑤辻	3	0	0
①高藤	2	0	0
⑥岩崎	3	2	0

24 3 0

粘る安中を振り切る 親和銀行

【二回戦】(延長8回一死満塁制) 振球犠盗失残併 2時間8分

親和銀行	100 000 05	6	2	4	1	3	1	7	0
安中クラブ	100 000 02	3	7	2	1	0	4	4	1

【二】黒石 大町

【評】高木の好投で優勝候補筆頭の親銀とがっぷり四つに組み1-1同点のまま延長。一死満塁制に持ち込んだ安中だったが八回に5点を奪われ涙をのんだ。三塁手の本塁悪送球が大量失点のきっかけだったがこうなると親和が試合巧者。機動力を絡めカサにかかった攻撃ぶり。島原・南高地区は有明町クラブが常連だったが前年から分離し、安中クは県選手権初出場。最後まで試合を捨てぬ善戦はほめられる。

【安中】打安点

⑦大町信	3	1	0
④石山	2	0	0
②大町好	3	0	0
⑧谷口	3	0	0
⑥古瀬	2	0	0
⑨平山	3	1	0
③出田	3	0	0
⑤池田	3	0	0
①高木	1	0	0

23 2 0

【平戸】打安点

②上村	3	0	0
⑧高本	3	0	0
⑥正木	3	0	0
③古川	3	0	0
①井手	2	1	0
H作元	1	0	0
⑦森川	2	0	0
⑨石山	2	0	0
④松田	1	0	0
⑤山下	2	0	0

22 1 0

平戸、エラーが命取り

【二回戦】◇大橋◇ 振球犠盗失残併 1時間8分

平戸クラブ	000 000 0	0	2	1	0	1	2	2	0
福江ビクトリー	200 000 X	2	2	2	0	0	0	4	0

【評】平戸は立ち上がりのエラーが命取りになった。先頭の本岡を左飛に打ち取ったが野手が落球して二進させ、坪内のバント安打と富川の三ゴロで一死二三塁から林に中前タイムリーを浴びて2点を先制された。平戸の投手井手口は二回以降、福江打線を無安打に抑えたが自軍打線も1安打のみ。これで51年に県北から3地区参加となった8年間に7回(55年は別)出場するも7連敗(棄権1含む)中。

【福江】打安点

⑦本岡	3	0	0
④坪内俊	3	1	0
⑥富川	3	0	0
①林	3	1	2
H木場	2	0	0
⑦山内昭	3	0	0
⑨山内善	2	0	0
④田上	2	0	0
⑤中尾	1	0	0

22 2 2

【佐々】打安点	
⑥岩永好	2 0 0
⑤松田	2 1 1
①草積	3 0 0
⑦木寺	4 0 0
②広瀬	3 0 0
③岩永親	3 0 0
⑧嶋川	3 1 1
①前川	3 1 0
④前田	3 0 0
26 3 2	

3安打で6点
佐々、わずかに

【二回戦】◇大橋◇		振球犠盗失残併		1時間22分	
佐々クラブ	001 230 0	6	2 8 0 3 1 7 0	【二】松田	
大瀬戸クラブ	000 000 2	2	3 4 0 1 4 5 0	【二】嶋川	

【評】大瀬戸はエラーで自滅した。三回、四球走者を一塁に置いて松田に喫した三塁打の1点はやむを得なかったが、四球走者を出してはエラーが重なり傷口を広げた。僅か3安打で6点とは佐々も笑いが止まらなかっただろう。大瀬戸も最終回、疲れた草積から3四球を得て内野失策などで2点を返したが既に遅かった。両チームとも県選手権大会は初出場だった。

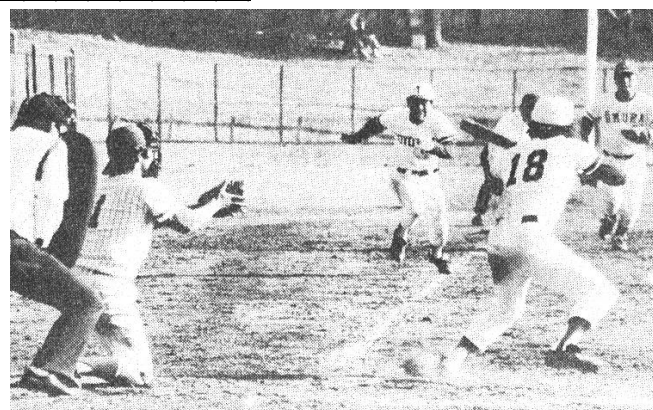
【大瀬戸】打安点	
⑧田原	4 1 0
②橋口	2 0 0
①宮下	3 0 0
⑥宮口	2 1 0
⑤坂口	3 0 0
④嶋田	2 0 0
③大島	2 0 0
②津留	2 0 0
⑦神浦	3 1 0
23 3 0	

【大村】打安点	
⑧田口	4 1 0
②口石	2 1 0
①藤田	3 1 0
⑤辻崎	1 0 0
④永新	3 0 1
⑥新高	3 0 0
③野高	2 0 0
3久富	1 0 0
⑦尾島	3 2 0
⑨太田	2 0 0
H高尾	1 1 0
9内田	0 0 0
25 6 1	

3バント成功 延長10回、豊玉が勝つ

【二回戦】◇大橋◇		振球犠盗失残併		延長8、9、10回は死満塁制	
大村球友会	000 100 020 0	3	5 2 1 0 0 6 0	1時間52分	
豊玉クラブ	000 000 120 1x	4	0 1 0 2 1 3 1		

【評】一死満塁制をやること三回目の延長十回に松尾が3バントスクイズに成功してケリをつけた。1点リードされた豊玉が土壇場の七回一死二塁で打者中島との間に試みたエンドランは捕飛。万事休したかに見えたが捕手が落球して一塁に刺すのが精一杯。命拾いの松尾が三盗後に長郷の二塁左を襲う安打で同点に追いついた。九死に一生を得た豊玉に勝運が傾いた。大村球友会は初出場初勝利を挙げる事ができなかった。



10回裏、豊玉クラブ一死満塁に松尾のスクイズで三走の平山がサヨナラのホームを突く

【豊玉】打安点	
⑥平山	3 1 0
⑨河野	3 0 0
⑤横瀬	3 0 0
①松尾	3 2 0
③中島	3 0 0
⑦長郷	3 1 1
⑧小島	3 0 0
②木村	2 0 0
④末松	1 0 0
24 4 1	

【ブローズ】打安点	
⑦川上	3 2 0
⑥山村	3 2 0
②川志	1 0 0
④川恵	2 0 1
⑤鉄川	3 0 0
③武田	2 0 0
H西崎	0 0 0
⑨川靖	2 0 0
H前田	0 0 0
①中本	3 0 0
⑧宮下	2 0 0
21 4 1	

初回の攻防で決まる
中興が押し切る

【二回戦】◇三菱球場◇		振球犠盗失残併		1時間25分	
ブローズクラブ	201 000 0	3	1 1 4 0 1 2 0		
中興化成工業	301 000 X	4	2 4 1 0 3 4 0		

【評】30分を要した初回の攻防が試合を決める形となった。ブローズに2連打やスクイズなどで2点を先制された中興はその裏、制球難のブローズ中本を攻略。無死から2連続四球に永利と岩本の連打で2点。吉田の二塁ゴロの間に三塁から永利が還り逆転。その後は両チーム1点ずつを加えただけで中興が押し切った。ブローズは奈良尾クラブが推薦出場(前年優勝)した54年以来、二度目の出場ですべて初戦敗退した。

【中興】打安点	
④国生	1 0 0
⑦尾野	2 0 0
⑥永利	3 1 1
①岩本	2 1 1
⑤吉田	3 0 2
②大浦	3 0 0
⑧末永	2 0 0
③倉重	3 1 0
⑨石川	2 0 0
21 3 4	

【鴻の巣】打安点	
⑧村川和	4 0 0
⑨小田	2 0 0
⑥福田三	3 0 0
②福田利	3 1 0
①山口	3 1 0
⑤松下	3 1 1
⑦礎	1 0 1
④3平野	3 1 0
③福田教	2 0 0
H4村川昌	1 0 0
25 4 2	

轟クにスキを与えず
光る山口の力投

【二回戦】◇三菱球場◇		振球犠盗失残併		1時間15分	
鴻の巣クラブ	010 000 1	2	2 2 1 3 2 5 0		
轟クラブ	000 000 0	0	4 3 0 0 1 4 0		

【評】チャンスを確実にモノにした鴻の巣が山口の力投で轟につけ込むスキを与えず勝利した。二回の鴻の巣はバントヒットの山口が二盗し一死後にバントで三進した後に平野が右前打。六回にも2本の内野安打で1点を追加し守ってはエースの山口が絶妙のコントロールで轟打線を1安打に抑えて県選手権大会デビュー戦で白星発進した。轟は諫早・北高が分離した54年初出場の年に2勝してベスト4。翌年は初戦で消えたが3年連続の56年もベスト4。

【轟】打安点	
⑦浜崎	2 0 0
⑤谷端	3 0 0
⑧津田	3 1 0
⑥道副	2 0 0
④伊東康	3 0 0
③山口	2 0 0
②中山	3 0 0
①伊東章	2 0 0
⑨東	2 0 0
22 1 0	

【有明町】 打安点

⑥	松本	3	1	0
①	金子	3	0	1
②	吉田浩	3	1	0
③	高見	4	0	0
⑦	宇土	3	1	0
⑨	吉田朝	3	0	0
⑧	吉田正	2	0	0
⑤	竹之内	2	1	0
R9	菅	0	0	0
④	前田	1	0	0
		24	4	1

延長8回
有明勝つ

【二回戦】◇三菱球場◇ 振球犠盗失残併

有明町クラブ	000 010 02	3	4	5	2	0	1	9	0	1時間25分
諫早球友会	100 000 01	2	1	0	2	0	1	4	0	

(延長8回・一死満塁制) 【三】高藤 【二】坂井、宇土
 【評】1-1で迎えた一死満塁制で2点を奪った有明が、その裏の諫早の反撃を1点に抑えて勝ち進んだ。初回の1点を追う有明は五回にヒットと送りバントで三進した竹之内を金子がスクイズでかえし同点。七回には無死満塁のチャンスを作るなど勢いに乗り、八回の得点に結びつけた。
 諫早球友会は今大会が初出場。諫早・北高が分離した54年から4年連続出場が無線局を押しよけての出場も初戦で敗退した。

【諫早】 打安点

⑧	野田誠	3	1	0	
④	高藤	3	1	1	
⑨	3	1	0		
③	浜崎	3	1	0	
①	坂井	3	1	0	
③	5	野田一	3	0	0
⑦	野田俊	3	1	0	
②	石本	1	0	0	
⑤	大久保	2	0	0	
H9	佐藤	1	0	0	
⑥	日下	2	0	0	
		24	5	1	

【三菱】 打安点

⑦	井上	2	0	0
④	桜木	3	1	0
⑨	宇都	1	0	1
①	川上	3	0	0
⑥	奥菌	3	1	0
③	井手	3	0	0
⑤	橋本	1	0	0
5	小本	1	0	0
H5	野口	1	1	0
②	峰	3	1	0
⑧	前田	2	0	0
		23	4	1

三菱、6回の1点を守る
緊迫した投手戦

【二回戦】◇三菱球場◇ 振球犠盗失残併

三菱重工長崎	000 001 0	1	3	2	1	2	1	4	1	1時間17分
海自造修所	000 000 0	0	3	0	1	0		2	0	

【評】川上、小浜両エースの緊迫した投手戦となったが地力に勝る三菱が六回に挙げた1点をガッチリ守り切った。三菱は六回に死球の井上が桜木の右中間安打で三進。宇都が高々と中犠飛を打ち上げた。守っても川上が海自打線を散發2安打に抑えた。
 佐世保の海自造修所は親和銀行が地区予選で立ちほだかり、推薦出場の年も他チームの後塵を拝して、42年の海自工作所以来の出場は初出場同様だったが三菱重工長崎の壁は厚かった。

【海自】 打安点

④	8	西岡	3	0	0
⑤	山崎	光	3	0	0
①	小浜	3	1	0	
②	金納	3	0	0	
⑧	志方	0	0	0	
3	坂本	1	0	0	
H	丸田	1	0	0	
⑥	山崎強	2	0	0	
⑦	松永	2	0	0	
⑨	秀嶋	2	0	0	
③	4	徳永	1	0	0
H4	堤	1	1	0	
		22	2	0	

大会二日目の10月29日は大橋球場で準々決勝4試合が行なわれ親和銀行が福江ビクトリーを2-0。豊玉クラブは初出場の佐々クラブに3-2で辛勝して2年連続で準決勝進出を決めた。中興化成工業も初出場の鴻の巣クラブに一死満塁制の延長戦の末4-3勝利し

5年前に準優勝して以来、三度目(日本ダッジの51年も)のベスト4。第4試合では有明町クラブが三菱重工長崎を接戦の末2-1で勝ち、36年第11回大会に初出場し16回目の出場で、52年(11回目)準決勝で親和銀行を倒して準優勝以来二度目のベスト4となった。

親和 “足攻、鮮やか” 福江は得点機に1発出ず

【親和】 打安点

③	久住呂	3	2	0
⑧	古川	3	0	0
⑨	宮添	2	0	0
H9	坂井	1	1	1
②	黒石	3	1	0
⑦	川崎	3	0	0
④	高柳	3	0	0
⑤	辻	3	1	1
①	佐々田	2	0	0
⑥	岩崎	3	0	0
		26	5	2

【準々決勝】 振球犠盗失残併

親和銀行	010 001 0	2	3	1	0	3	1	4	0	1時間26分
福江ビクトリー	000 000 0	0	3	2	0	0	2	5	1	

【評】試合巧者の親銀が足を使った攻撃でチャンスを実にモノにして勝利をつかんだ。二回表の親銀は敵失で出た黒石が一塁ゴロの川崎と二塁手が交錯する間に三進。二死後に辻がうまく右前に落として先取点。六回表にも三遊間安打と盗塁などで三進した久住呂が代打・坂井の内野安打で本塁へ駆け込み試合を決定的にした。
 福江も二回と六回に走者を三塁まで進めたが佐々田の伸びのある速球とタイミングをはずすカーブに要所を抑えられ散發3安打敗戦し、初出場場で4強入りした49年と、6度目出場の56年以来のベスト4は消えた。

【福江】 打安点

⑦	8	本岡	3	1	0
④	坪内	信	1	0	0
H4	荒木	2	0	0	
②	6	富川	2	0	0
①	2	林	3	1	0
③	7	木場	3	0	0
⑨	山内	昭	2	1	0
⑥	1	白浜	3	0	0
⑤	田上	3	0	0	
⑧	中尾	2	0	0	
3	山内善	0	0	0	
		24	3	0	

【豊玉】 打安点

⑥	平山	2	1	0
⑨	河野	3	1	1
⑤	横瀬	3	0	0
①	松尾	4	1	1
③	中島	3	1	1
⑦	長郷	3	1	0
⑧	小島	3	2	0
②	木村	3	0	0
④	末松	2	0	0
		26	7	3

勝利を呼ぶ一打 6回、豊玉の河野

【準々決勝】 振球犠盗失残併 1時間42分

豊玉クラブ	002 001 0	3	1	6	3	6	2	11	0	【二】小林
佐々クラブ	100 100 0	2	5	3	0	2	1	5	0	松尾

【評】六回二死三塁で豊玉の2番河野の放った三遊間安打が接戦にケリをつける値千金の一打となった。1点を追う豊玉は三回二死から横瀬が死球出塁。ここで4番の松尾が期待にこたえ右中間二塁打し横瀬が一気にホームを駆け抜け同点。続く中島も左翼線へ痛烈に弾き返し逆転に成功した。
 佐々は四回に三遊間安打の岩永親が二三盗を決め捕手悪送球で同点としたが反撃もここまで。六回の豊玉・河野の一打に涙をのんだ。

【佐々】 打安点

③	98	岩永好	4	0	0
⑤	松田	2	0	0	
⑧	1	草積	3	0	0
⑦	木寺	3	0	0	
②	広瀬	3	1	0	
⑨	鴨川	1	0	1	
1	岩坪	1	0	0	
3	久家	0	0	0	
④	前田	2	0	0	
H	前川	0	0	0	
①	39	岩永親	3	2	0
⑥	小村	3	1	0	
		25	4	1	

土壇場に追いつく 延長8回 中興、見事な逆転勝ち

【中興】打安点

⑦国生	3	0	0
③尾野	3	0	0
⑥永利	3	1	1
①岩本	4	0	0
⑤吉田	2	0	0
②大浦	3	0	0
⑧末永	2	1	0
④真子	3	0	0
⑨石川	1	0	0
24 2 1			

【準々決勝】 振球犠盗失残併

中興化成工業	000	000	31	4	7	7	0	0	3	7	0
鴻の巣クラブ	002	100	00	3	2	3	1	4	1	7	0

1時間59分
【二】松下

【評】土壇場の七回二死から3点を奪い同点に追いついた中興が、延長八回の一死満塁制で1点を加え奇跡の逆転勝ちを収めた。0-0で迎えた最終の七回。中興はそれまで1安打に抑えられていた鴻の巣・山口の突然の乱調につけ込んだ。二死一塁から石川、国生が連続四球で満塁。尾野は三塁ゴロで万事休すかに見えたが三塁手が一塁へ大暴投し二者が還り1点差。続く永利が中前へうまく弾き返して二走の尾野が還り同点。延長八回に押し出して勝ち越し。守ってもエース岩本がその裏に鴻の巣を零点に抑え逆転勝ちした。鴻の巣にとっての誤算はエース山口の乱調。六回まで被安打1の素晴らしい投球内容だっただけに惜まれる。

【鴻の巣】打安点

⑧村川和	4	0	0
⑥福田三	3	0	0
⑤松下	3	2	0
②福田利	4	0	0
①山口	3	1	0
③平野	2	0	0
⑦礎	2	0	0
⑨小田	3	1	0
④村川昌	3	1	1
27 5 1			

果敢な走塁で決勝点 金子力投 有明が三菱を破る

【有明】打安点

④5永田	3	1	0
①金子	2	0	0
②吉田浩	2	1	0
⑦宇土	3	0	0
③高見	3	1	0
⑤竹之内	1	0	0
4前田	1	0	0
⑧吉田正	3	0	0
⑨吉田親	2	1	0
⑥松本	3	1	1
23 5 1			

【準々決勝】 振球犠盗失残併 1時間23分

有明町クラブ	000	011	0	2	3	2	1	2	3	4	0
三菱重工長崎	000	010	0	1	3	0	1	1	1	6	0

【三】有田
【二】井手、高見、吉田朝

【評】三菱守備陣の意表をつく吉田浩の三盗と粘り強い金子の力投が三菱の牙城を突き崩した。1-1の六回表の有明は一死から中前打の吉田浩が見事な走塁を見せた。まず二盗に成功し三菱の川上がノーマークと見るやすかさず三盗。あわてた川上が三塁に悪投する間に一気にホームインし決勝点を挙げた(写真)。エースの金子も三菱の上位打線を完全に封じ込め、失策で与えた1点のみに抑える踏ん張りを見せた。三菱の粘りが期待されたが六七回はあっさりと三者凡退。やや拍子抜けの感もあった。有明町クラブは準優勝した52年第27回大会の準決勝戦で親和銀行を2-1で倒した以来の金星を挙げて準決勝に進出した。



【三菱】打安点

⑦井上	3	0	0
④桜木	3	0	0
⑨宇都	3	0	0
⑥1川上	3	0	0
⑤6奥	3	1	0
③井手	3	1	0
②峰	3	0	0
①有田	2	2	0
5小林	0	0	0
H橋本	1	0	0
⑧前田	1	0	0
H8上内	2	0	0
27 4 0			

6回裏、有明一死二塁に吉田浩の三盗で投手川上が三塁悪投し吉田が一塁生還し勝ち越し

大会最終日の30日は午前9時半から大橋球場で準決勝2試合と決勝戦を行ない、親和銀行が2年連続3回目の優勝を果たした。準決勝第1試合は親和銀行が初回に足を使った攻めで豊玉クラブの守備陣をかく乱し4点を奪い六回にも2点を加えて圧勝。第2試合は有明クラブがチャンスを確実にモノにし、中興化成工業

エースの岩本に10三振を奪われながらも4-0で下した。決勝戦は親和銀行が有明クラブ金子投手の立ち上がりを攻め坂井の二塁打などで2点を先取。守ってもエースの高藤が巧みな牽制球で走者を刺すなど有明打線につけ込むスキを与えず2-0で二連覇を達成した。(昭和58年10月31日付けの長崎新聞より抜粋)

【親和】打安点

③久住呂	3	1	0
⑧古川	2	0	0
H8川崎	1	0	0
⑨宮添	3	0	0
②黒石	3	0	0
⑤岩佐	3	2	0
4高柳	0	0	0
⑦坂井	2	1	2
④5辻	3	0	0
①宮本	3	1	1
⑥岩崎	2	0	1
25 5 4			

親銀ソツない攻め 豊玉、親銀の宮本を打てず

【準決勝】 振球犠盗失残併 1時間12分

親和銀行	400	002	0	6	1	6	0	6	0	4	0
豊玉クラブ	000	000	0	0	5	0	0	0	3	0	0

【三】坂井
【二】岩佐

【評】親和は初回久住呂が左前打。すぐに二三盗し捕手の三塁悪送球で生還。古川と黒石が死球後に重盗の二三塁で坂井が中越え三塁打。中継ミスも重なって坂井も一塁生還し4点を先制した。中盤持ち直した豊玉の松尾にやや打ちあぐんだ親和だが六回には四球と2本の安打で2点を追加した。豊玉は連投疲れの松尾に今ひとつ冴えが見えず打線も親和・宮本のコーナーを丹念につく投球で2安打に封じられたが、前年初出場で4強入りに続いて2年連続のベスト4は称えられる。

【豊玉】打安点

⑥平山	3	1	0
③河野	3	0	0
⑤横瀬	3	0	0
①松尾	2	0	0
⑦長郷	2	0	0
⑧小島	2	0	0
⑨小田	2	0	0
②木村	2	1	0
④末松	2	0	0
21 2 0			

【有明】打安点

⑤ 永田	2	0	0
⑥ 松本	2	0	0
② 吉田浩	3	1	1
① 宇土	2	0	2
⑨3 吉田朝	3	0	0
⑧ 吉田正	3	1	0
④ 前田	3	0	0
③ 木田	2	0	0
H9 菅	1	0	0
⑦ 金子正	3	1	0
		24	3 3

機動力の有明快勝 中興に痛いスクイズ失敗

【準決勝】 振球犠盗失残併 1時間15分

有明町クラブ	201 001 0	4	10	1	2	5	0	2	0	【三】倉重
中興化成工業	000 000 0	0	6	0	0	1	2	3	0	【二】吉田正

【評】両軍3安打ずつだったが機動力を生かした有明が快勝。立ち上がり有明は一死後に松本が歩き吉田朝が三遊間安打。重盗を決めて宇土のバントは二走の吉田まで生還する2ランスクイズとなって2点を先取。三回には内野安打の金子正がバント失で一挙三進。吉田浩の三ゴロの間に本塁を突いて加点。六回には敵失から三盗に暴投が絡んで無安打で得点した。

対する中興化成は五回一死から倉重の右線三塁打。石川とのスクイズはサインの不徹底から倉重が三本間で狭殺された。中興の左腕・岩本は三日間連投にも関わらず10奪三振の力投を見せたが有明の足にやられた感じで、53年第28回大会で決勝進出以来5年ぶりの出場は4強止まりに終わった。

【中興】打安点

④ 国生	2	0	0
⑦ 尾野	3	0	0
⑥ 永利	3	0	0
① 岩本	3	2	0
⑤ 吉田	3	0	0
② 大浦	3	0	0
⑧ 末永	2	0	0
③ 倉重	2	1	0
⑨ 石川	2	0	0
		23	3 0

親和
銀行

2年連続3度目のV

初回の速攻鮮やか 高藤が2点を守りきる

【決勝戦】 振球犠盗失残併 1時間30分

親和銀行	200 000 000	2	2	4	1	0	0	8	0	【三】坂井
有明町クラブ	000 000 000	0	7	1	1	0	2	5	0	前田

【評】有明のエース金子の立ち上がりを速攻した親和が初回の2点を高藤の力投と堅実な守備で守り切った。

親和は一回、先頭の久住呂が得意のバント安打で出塁。二盗失敗でチャンスはついていたが見えたが続く古川のゴロを竹之内が大きく横にはじき古川は二進。ここで坂井が右中間へ三塁打しまず1点。

二死後に川崎が右前に弾き返して坂井を迎え入れて2点を先制した。

有明は五回裏一死後に9番の前田がワンバウンドで右翼頭上を越える三塁打し反撃機をつかんだが高藤の絶妙な牽制球に刺されて好機を潰した。有明はこのほか走者を二塁に進めたのは一度だけで親和のエース・高藤のサブマリン投法の前に沈黙した。

有明の金子もよく投げた。36歳の年齢を感じさせぬ小気味よい投法で親和打線を二回以降2安打に抑えた力投は称えられる。



1回表親銀一死二塁に古川を置き坂井が右中間を破る三塁打を放つ

【親和】打安点

③ 久住呂	5	2	0
⑧ 古川	4	0	0
⑦ 坂井	3	1	1
② 黒石	2	0	0
⑨ 川崎	2	1	1
⑤ 岩佐	4	0	0
④ 辻	4	0	0
4 高柳	0	0	0
① 高藤	4	0	0
⑥ 岩崎	4	1	0
		32	5 2

【有明】打安点

⑤ 永田	4	1	0
① 金子	4	2	0
② 吉田浩	4	0	0
⑥ 松本	3	0	0
⑦ 宇土	3	0	0
⑨ 吉田朝	3	0	0
⑧ 吉田正	3	1	0
③ 竹之内	3	0	0
④ 前田	3	1	0
		30	5 0



閉会式終了後に一塁側ベンチ前でナインから胴上げされ、喜びを味わう松尾敏正監督

有明町クラブは今大会が16回目の出場となる。初出場が準硬式球使用の第11回(36年)で初勝利を挙げた。2回目が軟式に戻った16回(41年)で今大会までの18年間に3回(43年、49年、55年)は、盟友クラブと島原市役所(2回)の後塵を拝したが県選手権大会における島原・南高地区からの常連組であった。10回目出場までは5勝10敗で上位に進むことができなかったが11回目となった52年の第27回大会で初の2勝を挙げて準優勝の栄に輝いた。

その立役者はチームワークの良さもさることながら「小さな大投手、である金子一雄によるところが大きい。金子は有明中、島原農高を経て町役場に奉職し有明町クラブ(昭和35年設立)に入部。1年目(40年)は加津佐クラブの補強で4連覇中の日本冷熱工業に対して完投敗戦している。43年の国体県予選では平戸クラブ相手に延長26回を投げ

抜き0-1敗戦したこともある。

身長155cmから伸びのある直球と絶妙のコントロールの変化球を駆使して活躍していたが、24歳(45年)の時に交通事故で左目を失明し義眼に。再起不能といわれながらも血の滲む努力で復活し49年の高松宮賜杯1部全日本大会で九州代表としてマウンドも踏んでいる。その前後も国体の県代表として西九州予選に数回出場したりしていた。

県選手権大会においても島原・南高地区代表として常連出場しているが、長崎新聞に記された見出しや戦評によると何度、打線から『見殺し』にされたことか…。それでも不屈の闘志で相手打者に立ち向かっていく姿は素晴らしいものがある。

現在は県軟式野球連盟理事(県南支部理事長)として軟式野球の発展に貢献している。

(編集者・記)

昭和58年に開催された県大会、九州大会、全国大会の結果

天皇賜杯第38回全日本・県予選 (佐世保)

(長崎)日野自動車、十八銀行 (佐世保)親和銀行、海自造修所 (諫早)諫早球友会 (大村)中村クラブ (島原)安中クラブ (福江)三井楽クラブ (平戸)平戸クラブ (松浦)タイガース (東彼)波佐見コスモス (西彼)池島鋳業所 (南高)有明町クラブ (北高)小長井クラブ (県北)オール江迎 (上五島)上五島クラブ 16チーム参加

第38回群馬国体・県予選 (上五島)

(長崎)日野自動車、県経済連 (佐世保)親和銀行、紋クラブ (諫早)長崎無線電報局 (島原)市役所 (福江)球友会 (平戸)平戸クラブ (松浦)御厨クラブ (東彼)宿クラブ (西彼)池島鋳業所 (南高)ロノ津ヤンガース (県北)全江迎 (上五島)上五島ク、奈良尾ク 15チーム参加

【県代表の親和銀行は九州ミニ国体で敗退】

天皇賜杯第38回全日本軟式野球大会 9/15～・茨城県

【二】長崎日野自動車 0-2 住友金属鹿島(開催地)

第5回西日本1部・県予選 (諫早)

(長崎)西九州三菱 (佐世保)海自造修所 (諫早)諫早球友会 (大村)中村クラブ (島原)温泉病院 (平戸)島クラブ (松浦)菊池病院 (東彼)田川スラッガーズ (西彼)電源開発 (南高)ロノ津ヤンガース (北高)轟クラブ (県北)鹿町バンビーズ (上五島)舩田グループ 13チーム参加

第5回西日本2部・県予選 (大村)

(長崎)ミカクラブ (佐世保)市水道局 (諫早)小川仏具店 (大村)管友ク (島原)健友ク (平戸)白山ク (福江)五友会 (松浦)松浦ク (東彼)鴻ノ巣クラブ (西彼)大瀬戸ク (南高)たちばなモックス (北高)森山町ク (県北)生月体協 (上五島)有川町役場 14チーム参加

第5回西日本軟式野球大会〈1部〉 6/2～・宮崎県

【一】海自佐世保造修所 4-2 紀州信用金庫(和歌山)
【二】" 1-0 三菱金属直島製錬所(香川)
【準々】" 0-9 国労都城(開催地)

第5回西日本軟式野球大会〈2部〉 5/29～・滋賀県

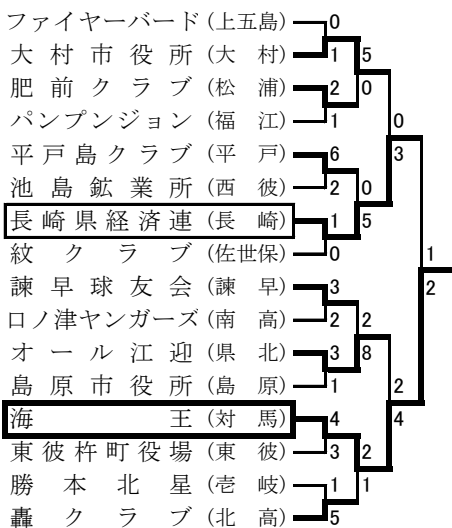
【一】鴻ノ巣クラブ 4-3 米子シャークス(鳥取)
【二】" 6-4 角力クラブ(高知)
【準々】" 7-14 古杖球友(佐賀)

第6回九州連合会長杯・県予選 (島原)

(長崎)日野自動車、三菱重工 (佐世保)親和銀行、天満タクシー、徳田クラブ (諫早)長崎無線電報局 (福江)球友会、ピクトリー (平戸)平戸クラブ (松浦)御厨クラブ (南高)有明町クラブ 【11チーム参加】優勝=親和銀行

高松宮賜杯第27回1部・県予選

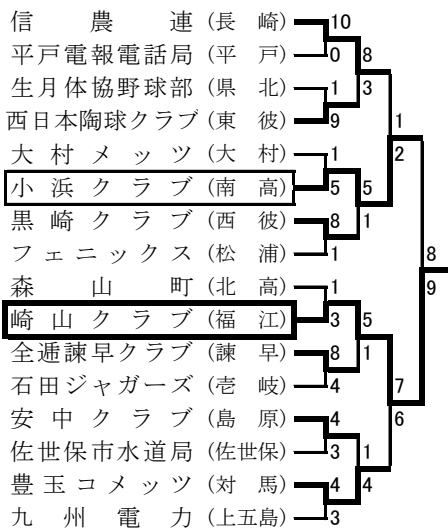
5/28～・大村



九州ブロック(鹿児島)で敗退

高松宮賜杯第27回2部・県予選

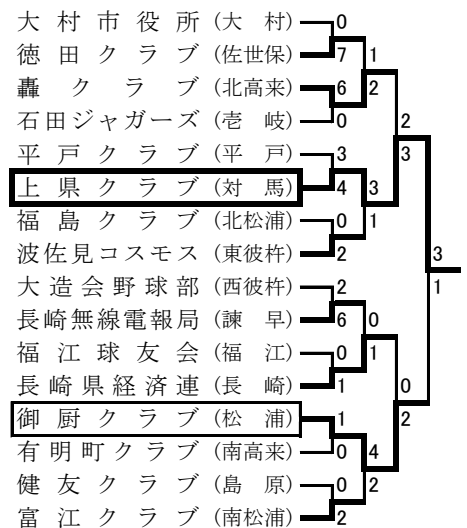
6/5～・東彼杵



九州ブロック(宮崎)で敗退

第35回長崎県民体育大会

11/5～・長崎



天皇賜杯決勝戦で延長45回の熱闘

天皇賜杯第38回全日本軟式野球大会決勝戦は昭和58年9月20日。茨城県水戸市の県営野球場で優勝候補No.1のライト工業株式会社(東京)と、浩洋会田中病院(宮崎)の対戦により午前9時に開始された。ところが試合が終ったのは8時間19分を経過した午後5時25分(中絶6分間)。延長45回の球史に残る試合が展開された。

先発投手はライト工業が休養十分のベテラン小山良春。一方の田中病院はこれまでの4日間5試合を投げ抜いた大黒柱の池内雄一郎。試合は予想をたがわずに投手戦となり0行進が延々と続いた。午後に入り延長25回を終ったところで大会本部は30分間の水入りを宣告したがやる気十分の両チームはこれを拒否。結局、球審を除く塁審3人が昼食(といってもおにぎり程度)をとるため6分間小休止しただけで再開。

やっと35回表にライト工業が無死から5番の大林が右前打し二盗も決めた。続く一塁ゴロで三進し7番の上条がバスターの投ゴロで三走の大林が還り先取点を挙げた。しかしその裏、田中病院は二死から3番・甲斐が二塁打。続く当たりは遊ゴロだったが一塁手のまさかの捕球ミスで三塁を回った甲斐が本塁に還った。

延長戦はまだ続く。36回からライト工業は大塚喜代美が救援しマウンドに。田中病院は池内がマウンドを死守し互いに譲らない。これにケリがついたのは45回。

45回表のライト工業は先頭の4番白川が左前打。続く捕手前バントは捕手の判断良く二封に仕留めたが、一走が代わって二盗。ここで捕手の悪送球が出て三進し6番川井のバスターは投手正面にバウンドしたが、好スタートを切っていた三走が捕手のタッチをかいくぐってホームイン。これが決勝点となった。

ライト工業は5年ぶり3回目の天皇賜杯獲得であったが、敗れたりとはいえ田中病院の池内投手は超人というほかはない。ライト工業の先発投手が35回で投球数396球に対して、一人で45回を投げ516球。しかも5日間6試合の連投で総投球数は1074球。

ライト工業の選手の顔ぶれを見ると46年夏の甲子園優勝投手で桐蔭学園(神奈川)ー明治大ー三協精機ー日本鋼管を経て入ってきた大塚投手に限らず、選手達は甲子園組が5人。社会人の三協精機OB組4人を含め東京や東都の大学リーグで活躍した大学選手揃いで、いわば野球のエリート集団。

一方の田中病院は北陽と甲子園の大阪代表を争ったPL学園のエースで社会人のキャタピラ三菱にいたが4年前に郷里の宮崎県にUターンし田中病院入りした池内投手のほかは地元高校(日向工、延岡学園、宮崎日大、高鍋など)からそのまま入った選手ばかりという、対照的なチーム構成であった。

試合終了後の閉会式に花を添えるため午前10時過ぎに水戸市消防本部音楽隊20人がネット裏に勢揃い。11時過ぎに閉会式との計算だったが、いつまで経っても試合が終らない。「こんなはずではなかった。今日は幸い後に演奏の予定がなかったから良かったが、明日だったら演奏できなかった」と、ぼやくことしきり。

ライト工業と田中病院の延長45回、8時間19分の試合が記録される以前の最長記録は、全日本軟式野球連盟主催の全大会を通じて昭和25年7月18日に愛知県一宮市営野球場で行なわれた第5回天皇賜杯大会二回戦の丸物百貨店(岐阜)ー大分鉄道管理局戦の37回。時間的には昭和53年8月22日の第33回天皇賜杯大会三回戦でライト工業ー三洋電機洲本(兵庫)との一戦。回数は31回であったが所要時間は8時間8分でスコアは3ー2でライト工業が勝利。延長戦に入って会場移動があり、静岡県島田球場と焼津球場の2会場が戦場。

国体では37年10月24日の岡山国体一般軟式の準々決勝、三井金属竹原(広島)ー増島製針所(長野)の37回。高松宮賜杯大会は35年9月7日の徳島市営球場での第4回1部二回戦、肥後銀行(熊本)ー大阪窒素耐火煉瓦(岡山)の34回が最長だったが、58年に青森県三戸町であった第27回2部準決勝で、横浜高島屋(神奈川)ー山九(山口)戦はサスペンデットゲームとなり、二日間にわたって33回、7時間33分を戦っている。

地方予選ともなると、とてつもないものがあり、25年の国体群馬県予選の準決勝、東洋紡織ー理研合成樹脂の試合で三日間にわたって67回の最長記録がある。

長崎県でも酷暑の7月、第6回高松宮賜杯1部九州予選で、三菱重工長崎と小野田セメント(大分)が二日間がかりで45回、7時間41分を戦っている。この試合は七回に双方1点ずつ入れて延長戦へ。17回を終ったところで後の試合消化のため特別継続試合で翌日へ。18回から再開した41回表に小野田が1点奪えば、その裏に三菱が同点に。ついに45回裏に二死後に四球走者を三塁においてサヨナラ打。審判も二日間そのまま起用されたが、44回までで球審を除き代わった途端…。

(全日本軟式野球連盟五十年史より抜粋)

	打数	安打	三振	四死	犠打	盗塁	失策	併殺	残塁
ライト	146	19	12	9	6	8	3	2	24
田中	150	17	16	6	1	2	2	1	21

投手	回数	球数	打者	安打	三振	四死	失点	自責
小山	35	396	124	13	12	6	1	0
大塚	10	111	33	4	4	0	0	0
池内	45	516	161	19	12	9	2	1

【ライト工業】		打安	【田中病院】		打安				
⑧9	成瀬	26 (明学大)	18	2	⑥	岩田	28 (宮崎日大)	16	0
④	青柳	28 (法大)	17	2	④	峰	22 (日向工)	18	2
⑥	佐々木	26 (亜大)	15	0	⑨	甲斐	20 (日向工)	18	2
③	白川	32 (東洋大)	14	4	⑤	姫野	31 (日向工)	18	2
⑤	大林	26 (亜大)	15	3	①	池内	28 (PL学園)	17	2
⑦	川井	25 (明大)	17	3	②	稲田	25 (日向工)	16	1
②	上条	25 (明大)	17	3	⑧7	小川	26 (日向工)	15	3
⑨	橘	24 (明学大)	3	0	③	石野	24 (延岡学園)	16	3
R8	赤坂	24 (東洋大)	13	2	⑦	高瀬	23 (延岡学園)	9	1
①	小山	31 (明大)	13	0	H	森	19 (延岡学園)	1	0
H	高橋	19 (日大明星)	1	0	8	高見	22 (高鍋)	6	1
1	大塚	29 (明大)	3	0				150	17
			146	19					

【二塁打】高瀬、甲斐、小川